

4
王上
聖徒伝 127

「打ち砕かれて 得る幸い」

列王記第一 20～21章

アハブの罪と悔い改め

アウトライン

0. イントロダクション

I. アラムとの戦い 20章

II. アハブの罪と悔い改め 21章

III. まとめと適用

あわれみの器として

用いられて行こう



乾季のサマリア



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

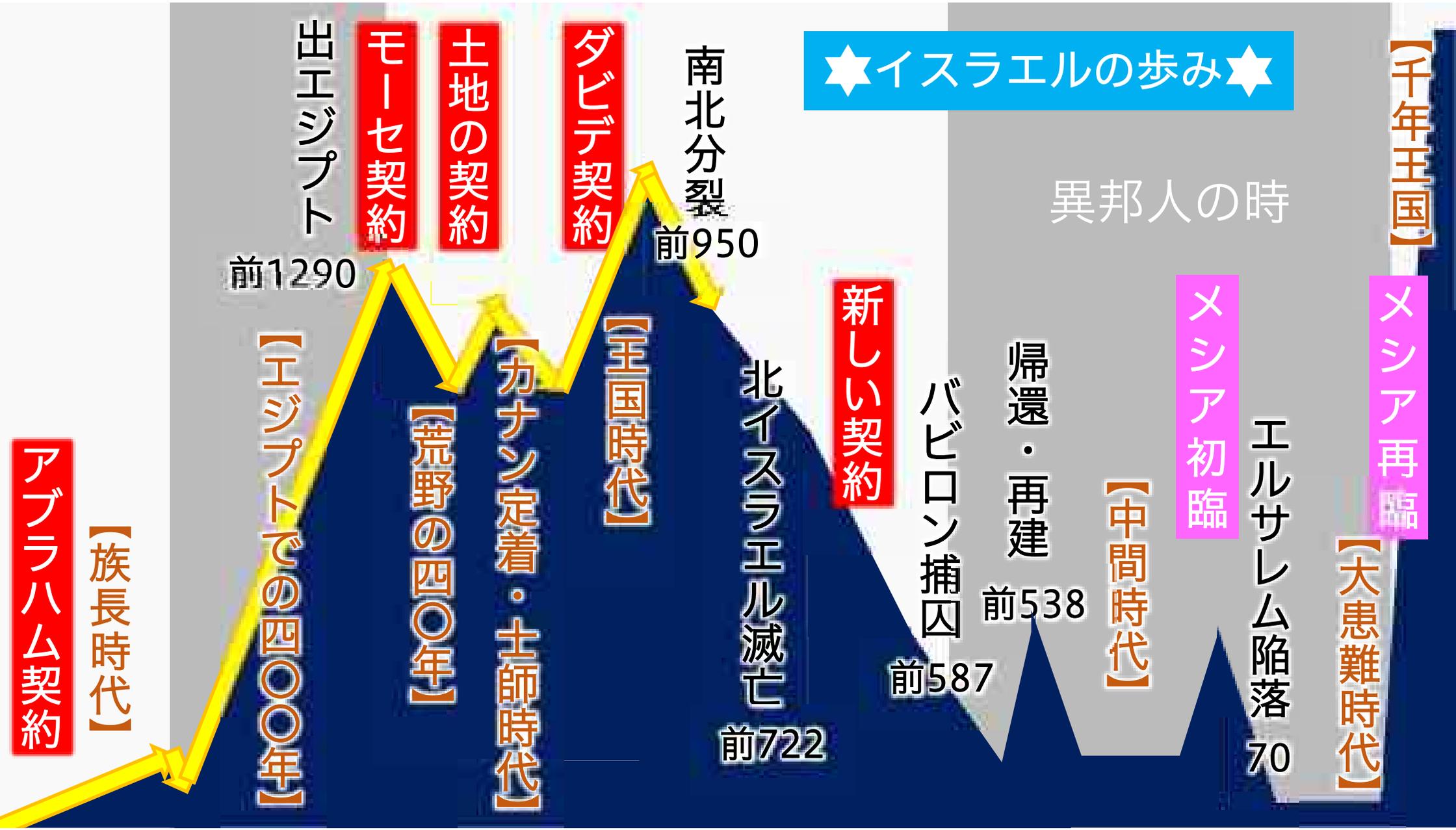
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

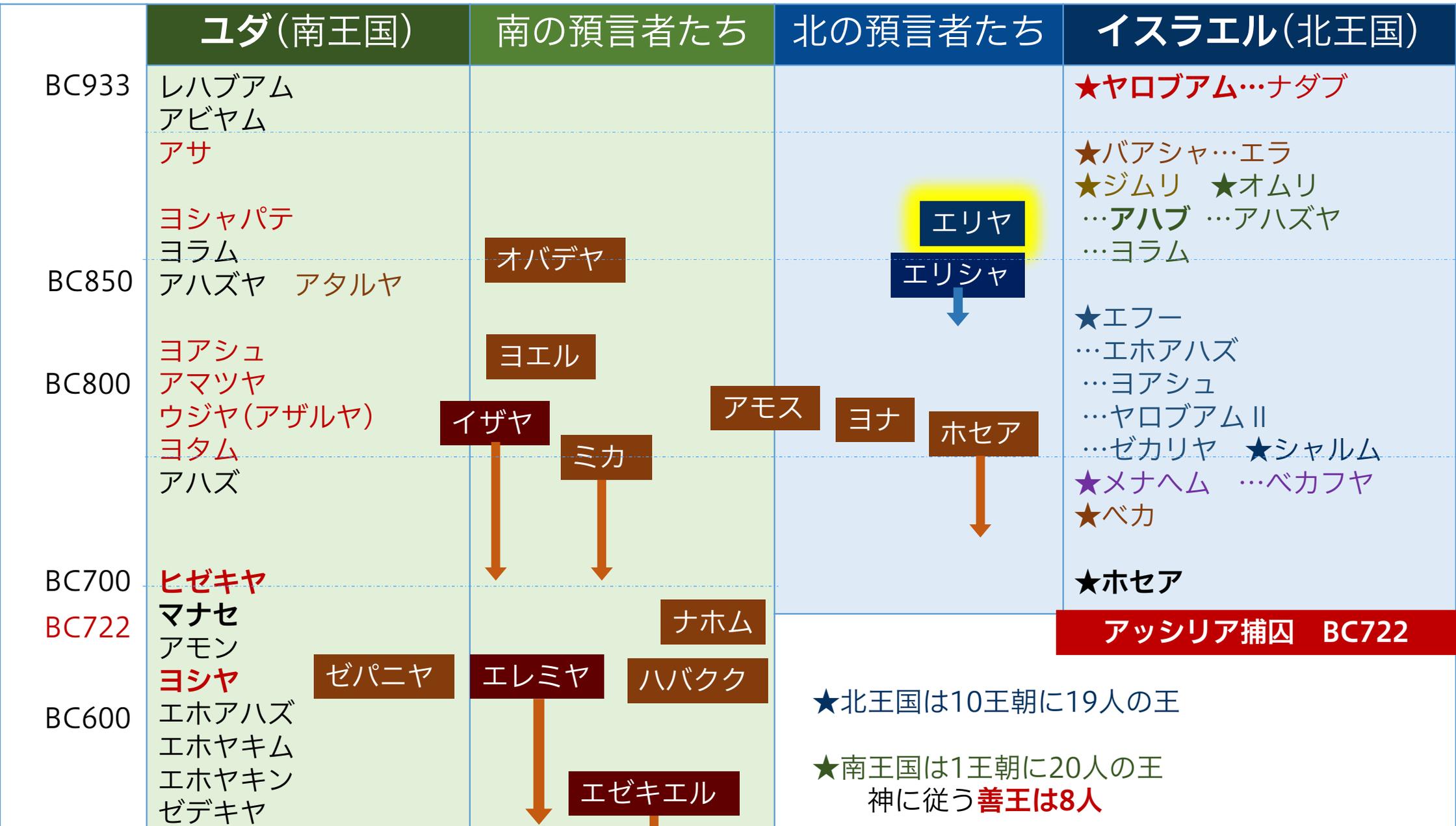
★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王



墮落の一途をたどる北王国のただ中で

■ ソロモンの死後、王国は分裂。北王国の王となった**ヤロブアム**は、金の子牛を築き、レビ人を追放、偽祭司を立て、偶像を蔓延させた。

■ 以降、北の王はことごとく**ヤロブアムの道**に進み、闇は深まった。

■ 北王国7代目の王**アハブ**は、ヤロブアムも軽く見えるほどの罪を。**イゼベル**を妻とし偶像礼拝を国の礎に!!

南北時代は
預言者の時代

■ 最悪の時代に立てられたのが、預言者**エリヤ**。
混沌の闇が深まるにつれ、主に遣わされた預言者の活動も活発に!!

北王国イスラエル

南王国ユダ

北王国最悪の時代 🦴

エリヤ エリシャ

【エフー王朝】
エフー 28年

エホアハズ 17年
ヨアシュ

イゼベル 🦴

【オムリ王朝】

オムリ 12年
アハブ 🦴 22年
ヨラム
アハズヤ 12年

アタルヤ 6年

アサ ♡
ヨシャパテ ♡ 25年

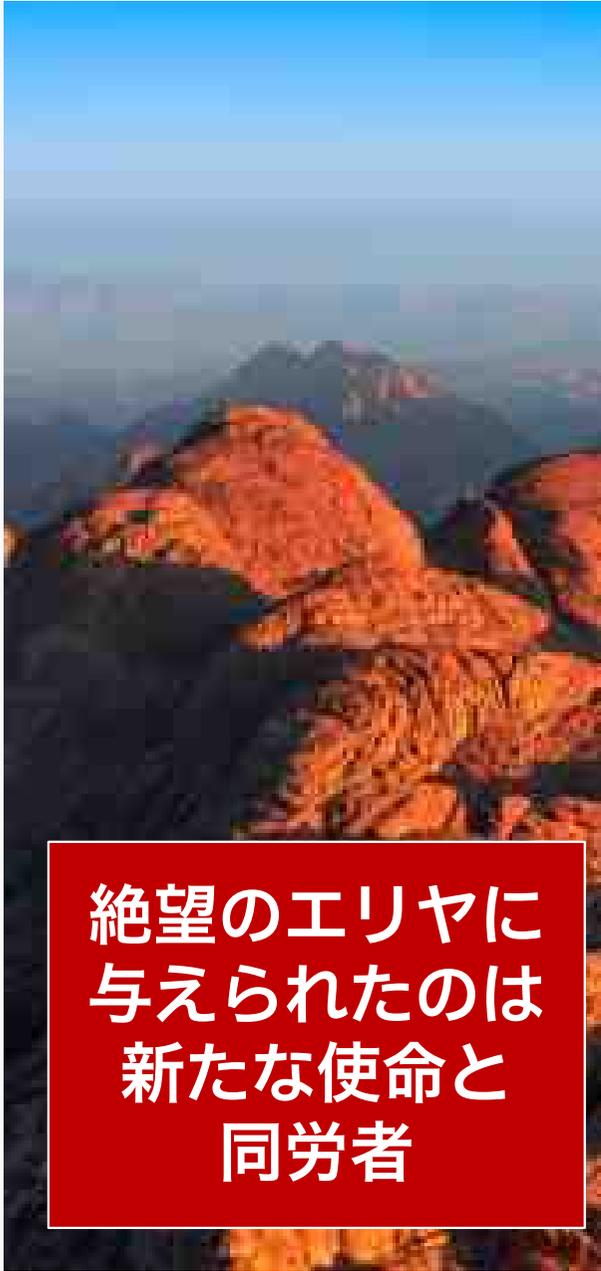
ヨラム 8年
アハズヤ 1年

ヨアシュ ♡ 40年
ウジヤ

オバデヤ

【エリヤの逃亡と帰還】 Ⅰ 列王記19章

- カルメル山で、バアルの預言者450人と対決。主の顕現により勝利し、3年ぶりの雨が降った。
- 預言者としての働きを全うしたエリヤだったが、悪女イゼベルに命を狙われ、恐れて逃げた。
- 40日後にたどり着いたシナイ山。激しい主の顕現の後、エリヤの心に主の細いささやきが届く。
- 主はエリヤを見捨てておられず、イスラエルには、信仰者7千人が残されていた。エリヤは立ち上がり、後継者エリシャを召した。



絶望のエリヤに
与えられたのは
新たな使命と
同労者

Ⅰ. アラムとの戦い

Ⅰ 列王記20章



サマリアの丘陵

【北の大国アラムの侵攻】 | 列王記20:1～3

アラムの王ベン・ハダド*は彼の全軍勢を集めた。彼には三十二人の王*と、馬と戦車があった。彼はサマリアに上り、これを包囲して攻め、町に使者たちを遣わして、イスラエルの王アハブにこう言った。「ベン・ハダドはこう言われる。『おまえの銀と金は私のもの。おまえの妻たちや子どもたちの、最も美しい者も私のものだ。』」

*ベン・ハダド2世 …ハダド1世は、バアシャ王(北)の時代、アサ王(南)の要請を受ける形で侵略。北王国の北部のいくつもの町々が奪い取られていた。

*侵略し、支配した、配下の王たち



【アラム王の要求】 | 列王記20:4~6

イスラエルの王は答えた。「王よ、仰せのとおりです。この私、および、私に属するものはすべてあなたのもの*です。」（*北王国の現状は**アラムの属国**）

使者たちは再び戻って来て言った。「ベン・ハダドはこう言われる。『私はおまえに人を遣わし、おまえの銀と金、および、おまえの妻たちや子どもたちを私に与えよ、と言った。

明日の今ごろ、私の家来たちを遣わす。彼らは、おまえの家とおまえの家来たちの家の中を探し、たとえば、おまえが一番大事にしているものさえ、手をかけて奪い取るだろう。』」

北王国の現実には内も外もガタガタで末期的



【王の嘆き・民の懇願】 Ⅰ 列王記20:7～8

イスラエルの王は国のすべての長老たちを呼び寄せて言った。「あの男が、こんなにひどいことを要求しているのを知ってほしい。彼は人を遣わして、私の妻たちや子どもたち、および、私の銀や金を求めたが、私はそれを断りきれなかった。」

すると長老たちや民はみな、彼に言った。「聞かないでください。承諾しないでください。」

アラムの完全な支配を受け入れるのか？
抵抗するのか？



【アハブ王の決断】 | 列王記20:9~10

そこで、彼はベン・ハダドの使者たちに言った。「王に言ってくれ。『初めに*あなたがこのしもべにお求めになったことは、すべてそのようにいたしますが、このたびのことはできません。』」使者たちは帰って行って、このことを報告した。

するとベン・ハダドは、彼のところに人を遣わして言った。「サマリアのちりが私に従うすべての民の手を満たすほどでもあったら*、神々がこの私を幾重にも罰せられるように*。」

*ハダド一世の侵略時の敗戦による要求

*イスラエルへの壊滅宣言。ジェノサイドは間近!!

*イゼベルがエリヤに発した同じ言葉がさらに激しく!!



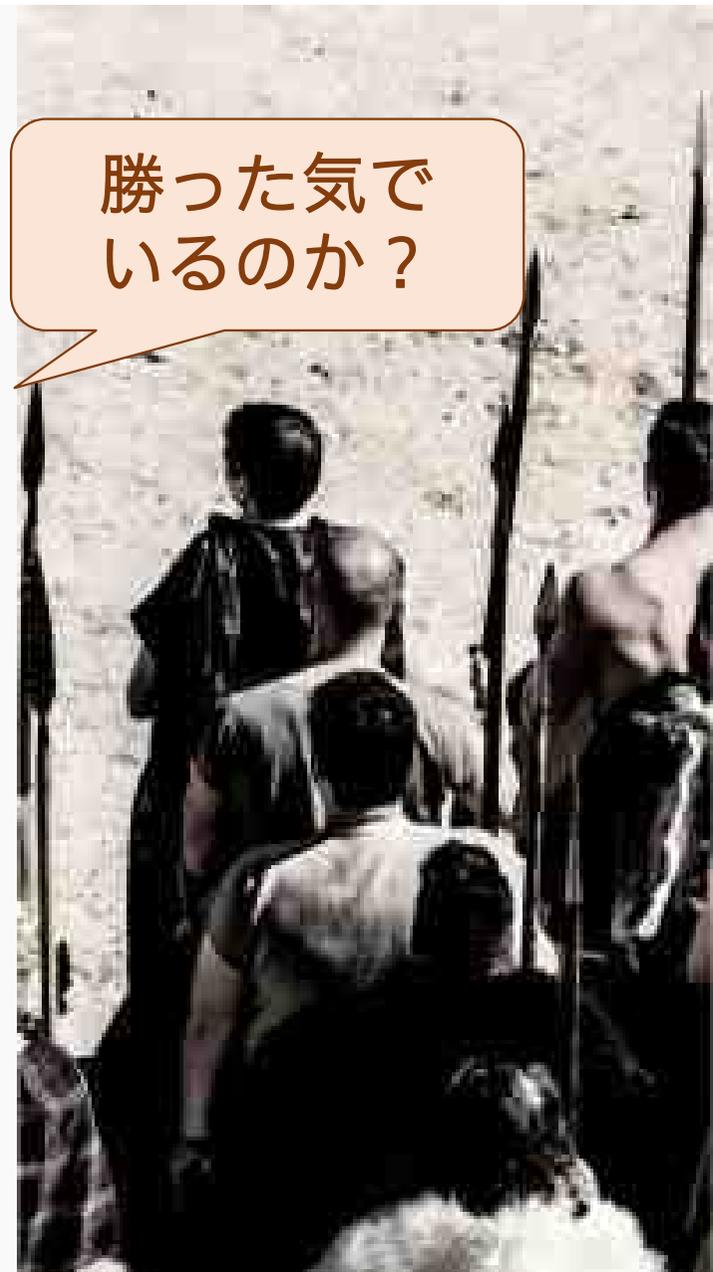
【不可避の戦い】 | 列王記20:11~12

イスラエルの王は答えた。「こう伝えてくれ。
『武装しようとする者は、武装を解く者のように
誇ってはならない。*』」

ベン・ハダドは、このことばを聞いたとき、王
たちと仮小屋で酒を飲んでいたが、家来たちに
「配置につけ」と命じたので、彼らはこの町に
向かう配置についた。

*慣用句?!…武装を解くまで勝敗は分からない

■戦う覚悟を決めたアハブだが、この期に及んで主に祈らない。 ➔**イスラエルの滅びは必至**



【勝利の預言】 | 列王記20:13

ちょうどそのころ、一人の預言者* がイスラエルの王アハブに近づいて言った。

「【主】はこう言われる。『あなたは、この大いなる軍勢を見たか。見よ、わたしは今日、これをあなたの手に引き渡す。こうしてあなたは、わたしこそ【主】であることを知る*。』」

*無名の預言者

*主を知らしめるための神の一方的な介入

➡この勝利は、アハブの信仰とは無関係。



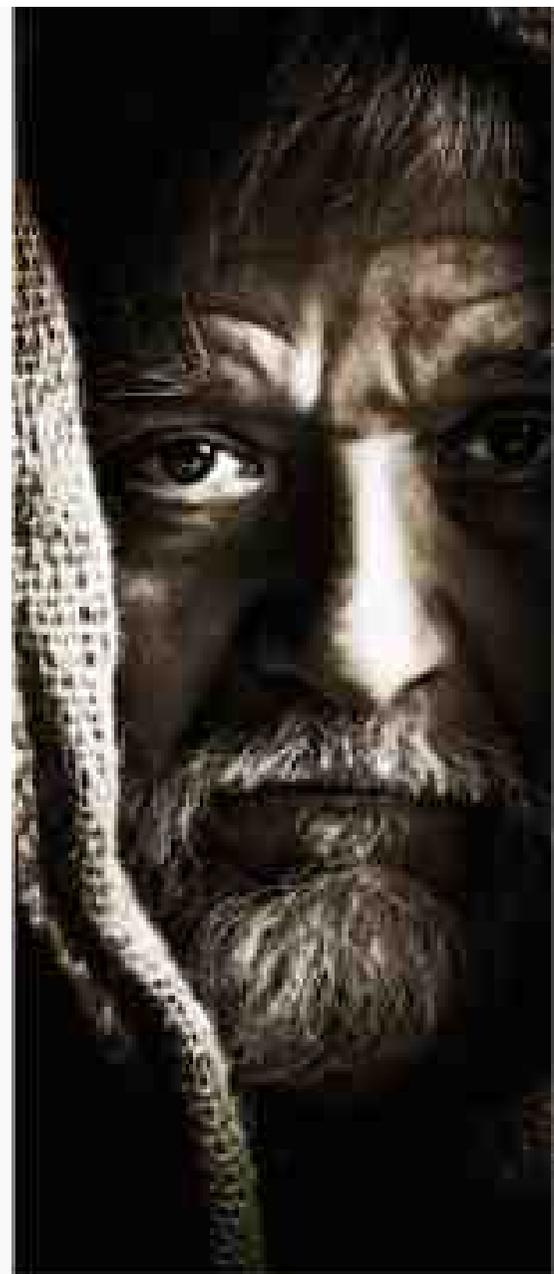
【戦士たち】 | 列王記20:14~15

アハブが「それは、だれによってでしょうか」と尋ねると、その預言者は言った。「【主】はこう言われる。『諸州の首長に属する若い者たち*によって。』」アハブが「だれが戦いを仕掛けるのでしょうか」と尋ねると、「あなたです」と答えた。

彼が諸州の首長に属する若い者たちを調べてみると、二百三十二人いた。そのほか、すべての兵、すべてのイスラエル人を調べたところ、七千人*いた。

*秘書官、道具持ち、補佐官といった立場か？

*主がエリヤに告げた残された民？…他に同数なし。



【出陣】 | 列王記20:16~18

彼らは真昼ごろ出陣した。そのとき、ベン・ハダドは味方の三十二人の王と仮小屋で酒を飲んで酔っていた*。

諸州の首長に属する若い者たちが最初に出陣した。ベン・ハダドが人を遣わすと、彼は「人々がサムリアから出て来ています」との報告を受けた。

彼は言った。「和平のために出て来ても生け捕りに*し、戦うために出て来ても生け捕りにせよ。」

*油断しきっていたベン・ハダド

*奴隷にすれば金になる。➡己の力の過信、傲慢。



サムリア近郊

【勝利】 | 列王記20:19～21

町から出て来たのは、諸州の首長に属する若い者たちと、これに続く軍勢であった。

彼らはそれぞれ相手に打ち勝ったので、アラム人は逃げ、イスラエル人は追った。アラムの王ベン・ハダドは馬に乗り、騎兵たちと一緒に逃れた。

イスラエルの王も出陣し、馬と戦車を討ち、アラム人を討って大損害を与えた。



【再戦への備え】 | 列王記20:22～23

その後、あの預言者がイスラエルの王に近寄って言った。「さあ、奮い立って、これからなすべきことをよく考えなさい。来年の今ごろ、アラムの王があなたを攻めに上って来るからです。」

そのころ、アラムの王の家来たちは王に言った。「彼らの神々は山の神*です。だから、彼らは私たちより強いのです。しかし、私たちが平地で彼らと戦うなら、きっと私たちのほうが彼らより強いでしょう」

*神々の優劣で、勝敗が決すると考えられていた。



北方の民・貴族

【アラムの家臣の提案】 | 列王記20:24～25

「このようにしてください。王たちをそれぞれ、その地位から退かせ*、王たちの代わりに総督を任命し、あなたは失っただけの軍勢と馬と戦車を補充してください。彼らと平地で戦うなら、きっと私たちのほうが彼らより強いでしょう。」王は彼らの言うことを聞き入れて、そのようにした。

*配下の国々を、アラム王による直轄に!!

➔王の権限を強化して軍を補充しよう。



北方の民・王

【アラムの再侵入】 | 列王記20:26～27

年が改まると、ベン・ハダドはアラム人を召集し、イスラエルと戦うためにアフエク*に上って来た。

一方、イスラエル人も召集され、食糧を受けて、彼らを迎え撃つために出て行った。イスラエル人は彼らと向かい合って、二つの小さなやぎの群れのように*陣を敷いたが、アラム人はその地に満ちていた。

*“砦” …同名が各地に。イズレエル平原の町か。

イズレエルの広大な平原が戦場になったのだろう。

*あまりにも頼りない自軍。敵とは圧倒的な戦力差。



【勝利の預言】 | 列王記20:28

ときに、一人の神の人が近づいて来て、イスラエルの王に言った。「【主】はこう言われる。『アラム人が、【主】は山の神であって低地の神ではない、と言っているので*、わたしはこの大いなる軍勢をすべてあなたの手に渡す。そうしてあなたがたは、わたしこそ【主】であることを知る』」

*この戦いは、主の栄誉がかかった**主の戦い**。

■主の戦いの原則 →アハブ軍は、アラムへの裁きの器として、主に用いられるにすぎない。

→主に徹底して従うことが求められる



イズレエル平原

【戦い】 I 列王記20:29～30

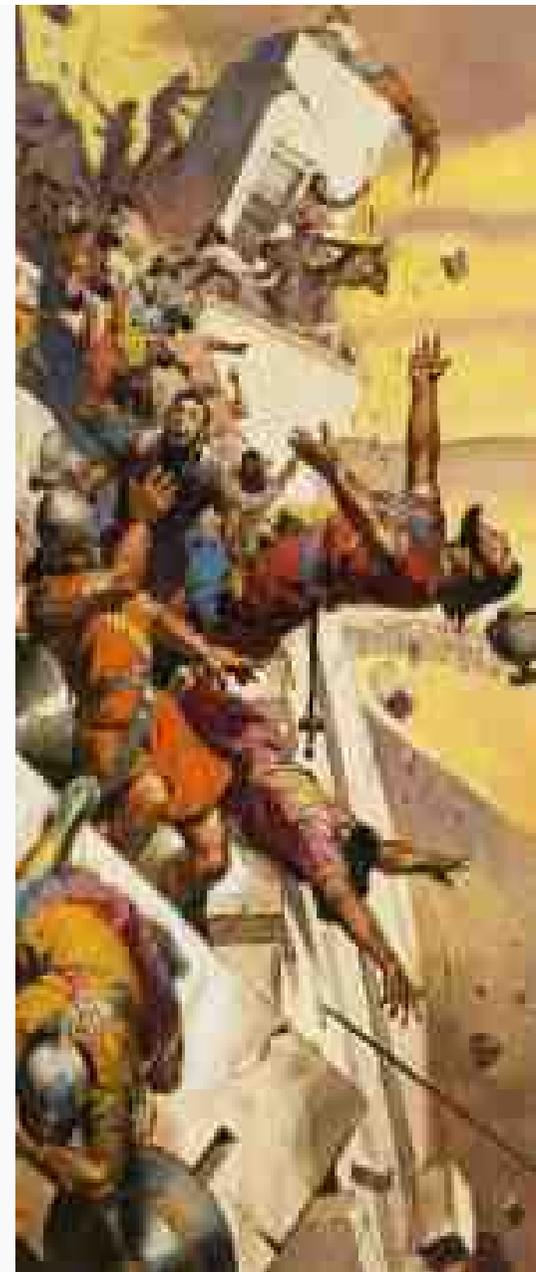
両軍は互いに向かい合って、七日間、陣を敷いていた。七日目になって戦いに臨んだが、イスラエル人は一日のうちにアラムの歩兵十万人を打ち殺した。

生き残った者たちはアフェクの町に逃げたが、その生き残った二万七千人の上に城壁が崩れ落ちた*。ベン・ハダドは逃げて町に入り、奥の間に入った。

*エリコの戦いを連想。主による介入だろう。

■アラムの大軍は一日で壊滅。

イスラエルの圧勝は、主ご自身がもたらされた。



【ベン・ハダドの命乞い】 | 列王記20:31

家来たちは彼に言った。「イスラエルの家の王たちは恵み深い王である、と聞いています。それで、私たちの腰に粗布をまとい、首に縄をかけ、イスラエルの王のもとに出て行かせてください。そうすれば、あなたのいのちを助けてくれるかもしれません。」

こうして彼らは腰に粗布をまとい、首に縄をかけ、イスラエルの王のもとに行って願った。「あなたのしもべ、ベン・ハダドが『どうか私のいのちを助けてください』と申しています。」するとアハブは言った。

「彼はまだ生きているのか。彼は私の兄弟だ*。」

＊侵略者の敵の王を兄弟と呼ぶ、アハブ王の魂胆は？

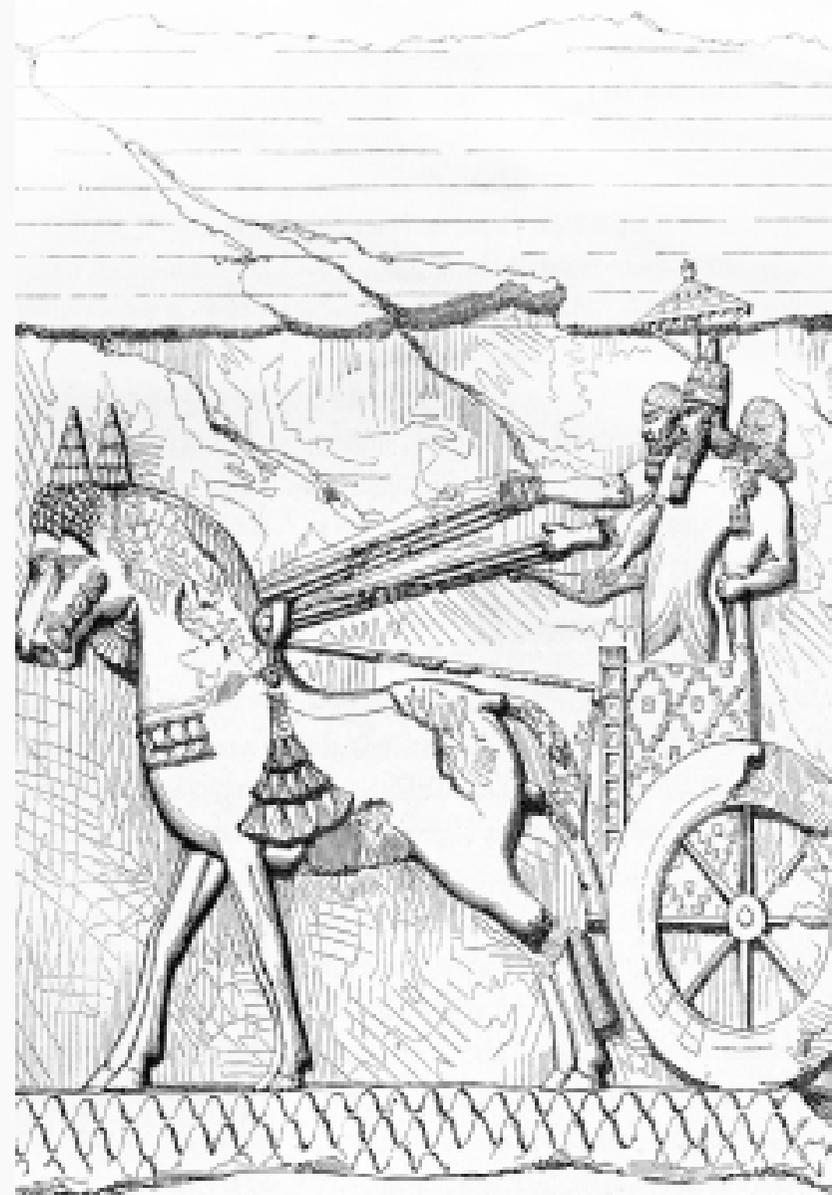


【アラム王の対応】 | 列王記20:33

この人々は、これは吉兆だと見て、すぐにそのことばにより事が決まったと思い、「ベン・ハダドはあなたの兄弟です」と言った。王は言った。「行って、彼を連れて来なさい。」ベン・ハダドが王のところに出て来ると、王は彼を戦車に乗せた*。

* 対等な扱い。…会談の場を設けた意味も。

例) 国の首脳同士のゴルフ?!



【アラム王との契約】 | 列王記20:34

ベン・ハダドは彼に言った。「私の父*が、あなたの父上から奪い取った町々をお返しします。あなたは私の父がサマリアにしたように、ダマスコに市場を設ける*こともできます。」
「では、契約を結んで、あなたを帰そう。」
こうして、アハブは彼と契約を結び、彼を去らせた。

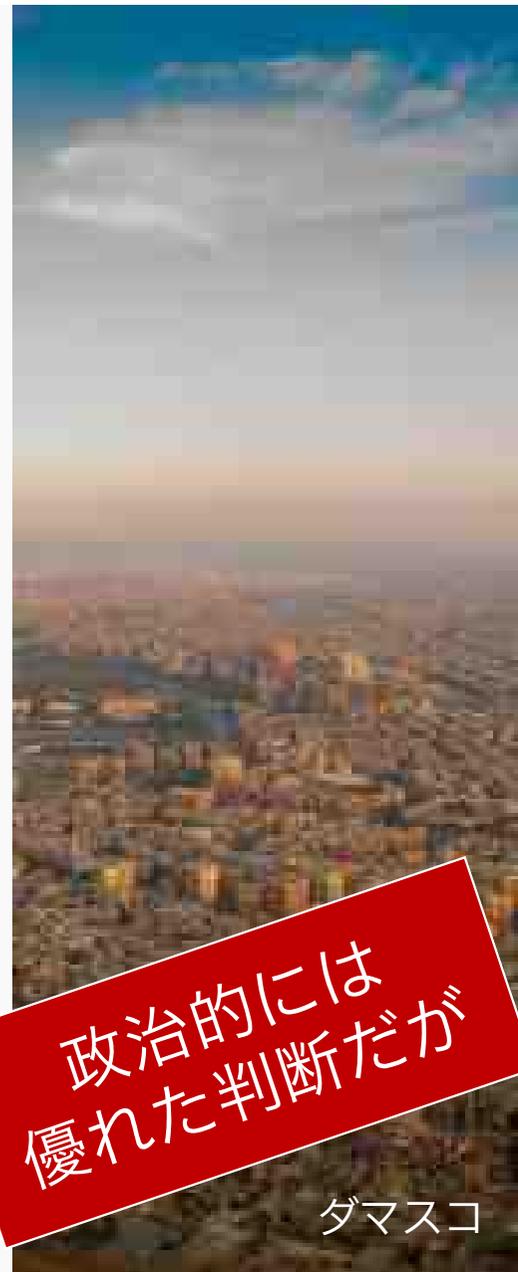
*ベン・ハダド1世 …バアシャ王(北)の時代に、アサ王(南)の要請に応じて北を侵略。(1列15:20)

*イスラエルに優位な二国間の通商協定

■イスラエル・アラム連合とアッシリアの戦いが3年後のカルカルの戦い(BC853)

政治的には
優れた判断だが

ダマスコ





【預言者】 | 列王記20:35～36

預言者の仲間の一人が、【主】のことばにしたがって、自分の仲間に「私を打ってくれ」と言った。しかし、その人は彼を打つことを拒んだ。

そこで彼はその人に言った。「あなたは【主】の御声に聞き従わなかったなので、あなたが私のところから出て行くと、すぐ獅子があなたを殺す。」

その人が彼のそばから立ち去ると、獅子がその人を見つけて殺した。

【王を待つ預言者】 | 列王記20:37~38

彼はもう一人の人に会ったので、「私を打ってくれ」と頼んだ。すると、その人は彼を打って傷を負わせた。

それから、その預言者は行って、道端で王を待っていた。彼は目の上に包帯をして、だれだか分からないようにしていた。



【預言者の語るたとえ】 Ⅰ列王記20:39

王が通りかかったとき、彼は王に叫んで言った。

「しもべが戦場に出て行くと、ちょうどそこに、ある人が一人の者を連れてやって来て、こう言いました。『この者を見張れ。もし、この者を逃がしでもしたら、この者のいのちの代わりにおまえのいのちを取るか、または、銀一タラントを払わせるぞ*。』

ところが、しもべがあれやこれやしているうちに、その人はいなくなっていました。」すると、イスラエルの王は彼に言った。「おまえは、そのとおりにさばかれる。おまえ自身が決めたとおりに。」

*捕虜を逃すのは重罪だった。



【アハブへの裁きの預言】 | 列王記20:41~42

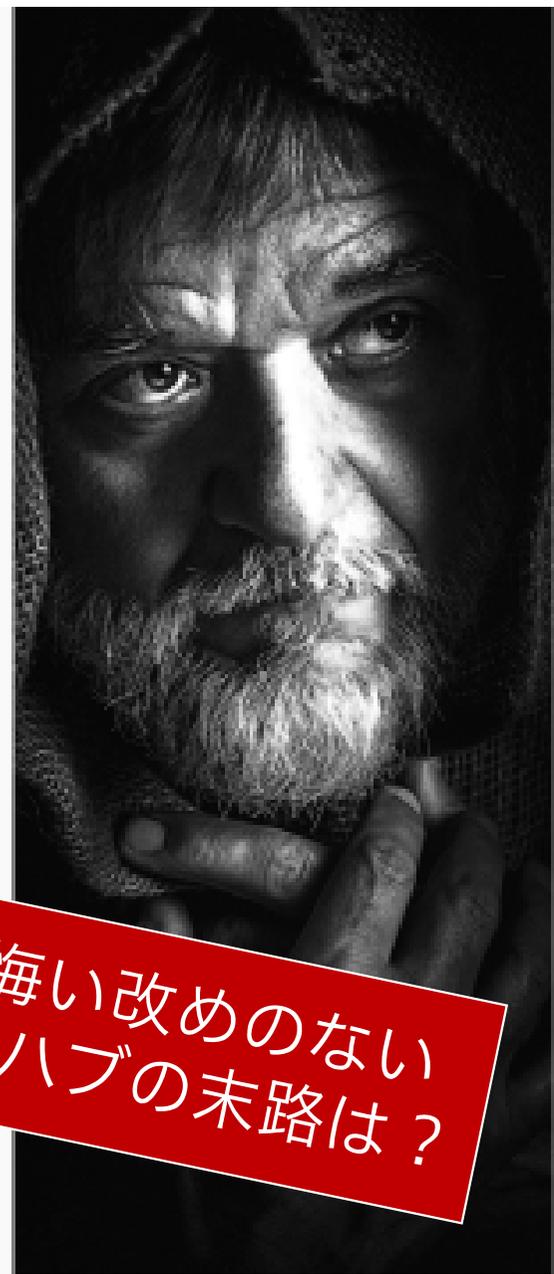
彼は急いで目から包帯を取った。そのとき、イスラエルの王は彼が預言者の一人であることに気づいた。

彼は王に言った。「【主】はこう言われる。『わたしが聖絶しようとした者をあなたが逃がした*ので、あなたのいのちは彼のいのちの代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』」

イスラエルの王は不機嫌になり、激しく怒って自分の宮殿に戻って行き、サマリアに着いた。

*神の厳粛な裁きを軽んじる不信仰の極み。

➡かつて聖絶の命令に背いたサウルは王位を喪失。



悔い改めのない
アハブの末路は？



II. アハブの罪と悔い改め

I 列王記21章

イスラエルのぶどう畑

【ナボテのぶどう畑】 | 列王記21:1

これらのことがあった後のこと*である。イスラエル人ナボテ*はイスラエルにぶどう畑を持っていた。それはサマリアの王アハブの宮殿*のそばにあった。

*年数というより、ことからの関連を強調

*“果実” …代々、ぶどう園を営んでいたのだろう。

*アラムの勝利の後、イスラエル平原に贅を尽くした別邸を建てたのだろう。



【アハブの交渉】 Ⅰ 列王記21:2

アハブはナボテに次のように頼んだ。
「おまえのぶどう畑を私に譲ってもらいたい。あれは私の宮殿のすぐ隣にあるので、私の野菜畑にしたいのだが。その代わりに、あれよりもっと良いぶどう畑を与えよう。もしおまえが良いと思うなら、それ相当の代価を銀で支払おう。」



【先祖のゆずりの地】 | 列王記21:3～14

ナボテはアハブに言った。「私の先祖のゆずりの地をあなたに譲るなど、【主】にかけてあり得ない*ことです。」

アハブは不機嫌になり、激しく怒って自分の宮殿に入った。イスラエル人ナボテが彼に「私の先祖のゆずりの地はあなたに譲れません」と言ったからである。アハブは寝台に横になり、顔を背けて食事もしようとしなかった。

* 嗣業の地を守るのはイスラエルの責務(民36:7他)

➡ 主を恐れる信仰者だったナボテ



【不機嫌なアハブ】 | 列王記21:5~6

彼の妻イゼベルは彼のもとに来て言った。
「どうしてそんなに不機嫌で、食事もなさらないのですか。」

そこで、アハブは彼女に言った。「私がイズレエル人ナボテに『金を払うから、おまえのぶどう畑を譲ってほしい。あるいは、おまえが望むなら、代わりのぶどう畑をやってもよい』と言ったのに、彼は『私のぶどう畑はあなたに譲れません』と答えたからだ*。」

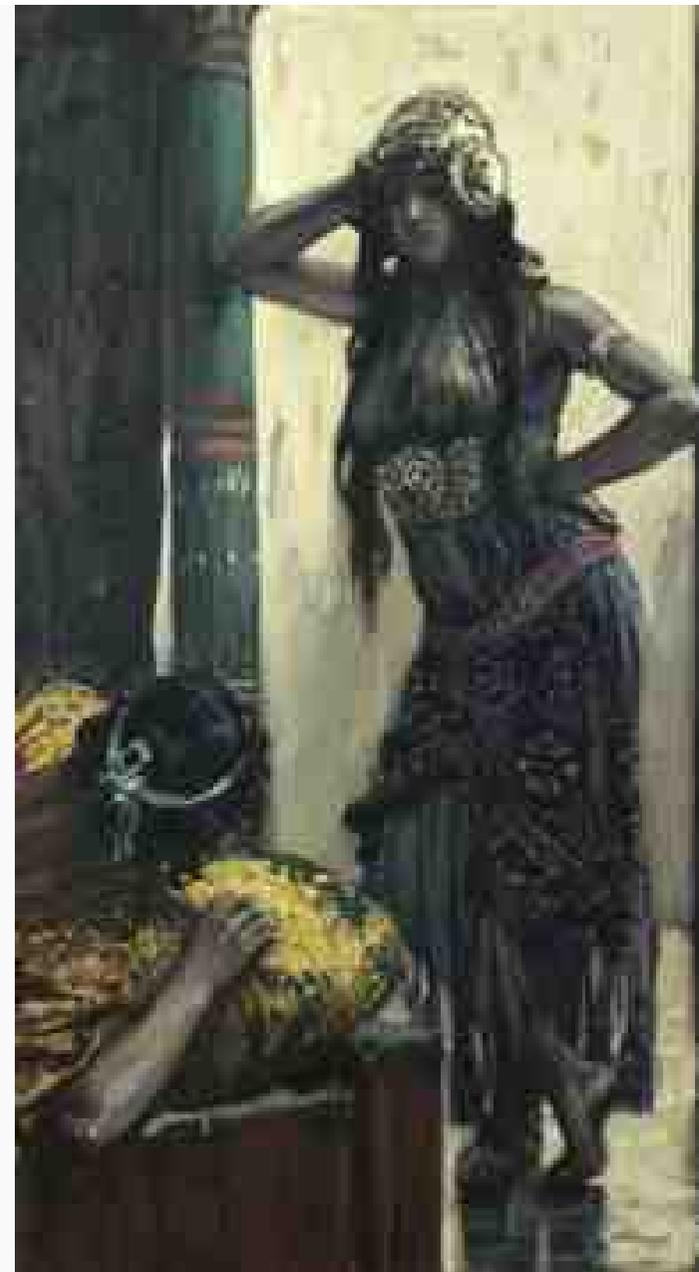
*拒否に固執し己の間違いに思いが至らない。



【イゼベルの申し出】 | 列王記21:7~8

妻イゼベルは彼に言った。「今、あなたはイスラエルの王権を得ています。さあ、起きて食事をし、元気を出してください。この私がイズレエル人ナボテのぶどう畑を、あなたのために手に入れてあげましょう。」

彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印で封印し、ナボテの町に住む長老たちとおもだった人々にその手紙を送った。



【イゼベルの策略】 | 列王記21:9～10

彼女は手紙にこう書いた。「断食を布告*し、ナボテを民の前に引き出して座らせ、彼の前に二人の*よこしまな者*を座らせて、彼らに『おまえは神と王を呪った*』と証言させなさい。そして、彼を外に引き出し、石打ちにして殺しなさい。」

*“悔い改めるべき重罪が町で犯された”

*証人には二名以上が必要。(申命記17:6～7)

*主を恐れない者。“破滅、無価値”の意味も。

*神を呪う者は石打刑。(レビ24:16)

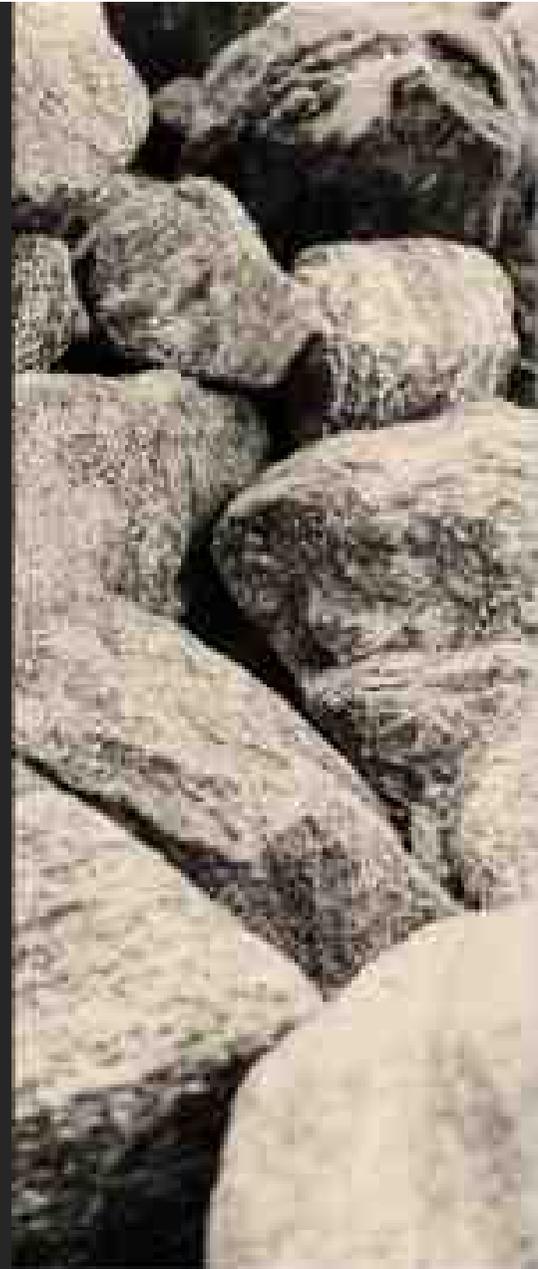
➡王への呪いは、律法には言及なし。



【ナボテの死】 | 列王記21:11~14

そこで、その町の人々、その町に住んでいる長老たちとおもだった人々は、イゼベルが彼らに言ってよこしたとおり、彼女が手紙に書き送ったとおりに行った。

彼らは断食を布告し、ナボテを民の前に引き出して座らせた。そこに、二人のよこしまな者が入って来て、彼の前に座った。よこしまな者たちは民の前で、「ナボテは神と王を呪った」と証言した。そこで人々は彼を町の外に引き出し、石打ちにして殺した。こうして、彼らはイゼベルに「ナボテは石打ちにされて死にました」と言ってよこした。



【イゼベルの報告】 | 列王記21:15~16

イゼベルはナボテが石打ちにされて殺されたことを聞くとすぐ、アハブに言った。「起きて、イスラエル人ナボテが代金と引き替えで譲ることを拒んだ、あのぶどう畑を取り上げなさい。もうナボテは生きていません。死んだのです。」

アハブはナボテが死んだと聞いてすぐ、立って*、イスラエル人ナボテのぶどう畑を取り上げようと下って行った。

*死者への追悼の年は全くない。

➡イゼベルの暗躍は察していただろうが…



【エリヤへの主の言葉】 | 列王記21:17~19

そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような【主】のことばがあった。

「さあ、サマリアにいるイスラエルの王アハブに会いに下って行け。今、彼はナボテのぶどう畑を取り上げようと、そこに下って来ている。

彼にこう言え。『【主】はこう言われる。あなたは人殺しをしたうえに、奪い取ったのか。』また、彼に言え。『【主】はこう言われる。犬たちがナボテの血をなめた、その場所で、その犬たちがあなたの血をなめる。』」



【アハブとエリヤ】 | 列王記21:20

アハブがエリヤに「おまえは私を見つけたのか、わが敵よ*」と言うと、エリヤは答えた。「そうだ。あなたが【主】の目に悪であることを行うことに身を任せたので、見つけた*のだ。」

*エリヤの登場の意味を即座に察したアハブ

➡神と敵対しているのは、アハブ自身。

分かって犯した悪行だと分かる。

*悪女イゼベルに依存していたアハブ

➡悪への依存も、紛れもなく一つの悪。



【裁きの預言】 | 列王記21:21～22

『今わたしは、あなたにわざわいをもたらす。わたしはあなたの子孫を除き去り、イスラエルの中の、アハブに属する小童から奴隷や自由の者に至るまで絶ち滅ぼし、あなたの家をネバテの子ヤロブアムの家*のようにし、アヒヤの子バアシャの家*のようにする。』

*ヤロブアム王朝、バアシャ王朝、北王国の歴代の王朝と同じ全滅の運命をアハブの家も。



【裁きの預言】 I 列王記21:21~22

『それは、あなたが引き起こしたわたしの怒りのゆえであり、あなたがイスラエルに罪を犯させた*ためだ。』

*最も重いアハブの責任

■偶像礼拝に加え、虚偽の証言、殺人、強奪主が与えた嗣業の土地の略奪。

→律法が禁ずる重罪を重ねたアハブの罪は、個人にとどまらない。

→イスラエル全体に破壊的な悪影響を!!





【イゼベルの最期】 | 列王記21:23～24

また、イゼベルについても【主】はこう言われる。

『犬がイズレエルの領地でイゼベルを食らう。

アハブに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、
野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。』」

【アハブの罪】 | 列王記21:25～26

アハブのように、自らを裏切って【主】の目に悪であることを行った者は、だれもいなかった*。彼の妻イゼベルが彼をそそのかした*のである。

彼は、【主】がイスラエル人の前から追い払われたアモリ人がしたのと全く同じように、偶像につき従い、非常に忌まわしいことを行った*。

*アハブの最悪の罪は、カナン並みの偶像礼拝。

*そそのかされた王の責任は免れない。



【アハブの悔い改め】 | 列王記21:27

アハブはこれらのことばを聞くとすぐ、自分の外套を裂き、身に粗布をまとして断食をした*。彼は粗布をまとして伏し、打ちひしがれて歩いた*。

*嘆きと悔い改めの表現

*己の威厳とプライドに固執していたアハブの、人目もはばからずに主の前に嘆く姿。



【主の憐れみ】 | 列王記21:28~29

そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような【主】のことばがあった。

「あなたは、アハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか*。彼がわたしの前にへりくだっているので、彼の生きている間はわざわざを下さない。しかし、彼の子の時代に、彼の家にわざわざを下す。」

*主は、アハブのへりくだりを認められた。

➡アハブは、本心から主に悔い改めた。

■怒るに遅く、憐れみ深い神は、アハブの家への裁きを先延ばしにされる恩赦を行われた。





IV. まとめと適用

あわれみの器として用いられて行こう

シナイ山に注ぐ朝日

【アハブの罪・主の命令への背きとその結果】

- アラムによる滅亡の危機に、主は一方向的に介入された。
主は、アハブを**裁きの器**として用いて、神の敵アラムを撃退された。
- 主の戦いで用いられる者には、徹底した**主への従順**が求められる。
しかし、アハブは、神の**聖絶の命令**に逆らった。
- 神の**裁きの厳粛さ**を侮ったアハブは、**聖絶すべき**だったアラムによって殺されることとなる。

【アハブの罪・ナボテ殺しとその結果】

- ただ己の貪欲のためにナボテの嗣業の土地を欲したアハブ。
正当な理由で拒否されて怒る姿こそ、罪人の本質を示している。
- イゼベルの邪悪さを知りながら依存したアハブの罪も同様に深い。
主の約束の嗣業の地は汚され、義人が主を呪ったと偽証で殺された。
➡ 十戒にある律法の根源的な規定をことごとく破ったアハブ。
- アハブの家の完全な滅亡、アハブとイゼベルの悲惨極まりない最期。
それは、当然の報いとして告げられた。

【アハブへの裁きと憐れみにあらわれた神のご性質】

- エリヤから滅びを告げられたアハブは、へりくだって悔い改めた。主ご自身が、アハブの悔い改めを本心からのものと認められた。
- アハブの家の滅びは、次代へ先延ばしにされた。アハブは、律法を授けられた主の憐れみを味わい知らされた。

「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。(モーセへの主の宣言・出エジプト34:6~7)」

【主の裁きの厳粛さと憐れみの深さを味わい知ろう】

- 聖絶は最終段階の主の裁き。逃れる者もとどめられる者もない。
→人にはピクリとも動かさない、厳粛な神の裁きがある。
- 悔い改めたアハブを憐れみ、アハブの代の家の滅びは免れた。
→アハブ自身への死の結末は変わらないが、
主は、アハブが、子孫への裁きを目撃しないようにされた。
- 救いの原則は、示された主の約束を信じ、ただ主を信頼すること。
主に悔い改めを認められたアハブは、確かに救われただろう。

【ただ信仰と恵みによる救い、きっちりとある罪の刈り取り】

- アハブは、悔い改め、ただ主を信頼し、恵みによって救われた。
主の約束による救いは、二度と失われることはない。
- 一方で、自ら蒔いた種の刈り取りも厳粛にある。
重い罪なら、死をもって刈り取りをさせられることすらある。
- 誰も主に不平を言う余地はない。
神の裁きは厳格で、人が立ち入る隙はない。
私たち人にできるのは、へりくだり、主の憐れみにすぎるだけだ。

【神の選びの正統性】

ローマ人への手紙9:14～16

それでは、どのように言うべきでしょうか。

神に不正があるのでしょうか。決してそんなことはありません。

神はモーセに言われました。

「わたしは あわれもうと思う者をあわれみ、
いつくしもうと思う者をいつくしむ。」

ですから、これは人の願いや努力によるのではなく、あわれんで
くださる神によるのです。

【神の選びの正統性】

ローマ人への手紙9:17~18

聖書はファラオにこう言っています。

「このことのために、わたしはあなたを立てておいた。

わたしの力をあなたに示すため、そして、わたしの名を
全地に知らしめるためである。」

ですから、神は人をみこころのままにあわれみ、
またみこころのままに頑なにされるのです。

【神の選びの正統性】

ローマ人への手紙9:19～21

すると、あなたは私にこう言うでしょう。

「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。

だれが神の意図に逆らえるのですか。」

人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。

造られた者が造った者に「どうして私をこのように造ったのか」と言えるでしょうか。

陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。

【神の選びの正統性】

ローマ人への手紙9:22～24

それでいて、もし神が、御怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられたのに、**滅ぼされるはずの怒りの器を、豊かな寛容をもって耐え忍ばれたとすれば、**どうですか。

しかもそれが、栄光のためにあらかじめ備えられた**あわれみの器**に対して、ご自分の豊かな栄光を知らせるためであったとすれば、どうですか。

この**あわれみの器**として、神は私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。

【一方的に主が用いられる 「あわれみの器」 として】

■なぜ私は、信じて救われるに至ったのか？

かたくなで罪深い私が救われたのは、ただ主の憐れみのゆえ。

■私が主に言い返す余地などかけらもない。

私もこの世界も、100%神の憐れみで生かされている。

■ただ主を信頼し、喜びの福音を伝えていこう。

結果はすべて、主が最善の形でになってくださる。

“主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。今も生きておられ、再び地上に戻られ、王の王として世界を永遠に治められる”

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

とほうもない罪(つみ)をおかし、重(おも)い刈(か)り取(と)りを

させられたアハブ。それは、わたしの姿(すがた)でもあります。

ほろぶべきものを、主はあわれみによって 救(すく)いに

みちびかれました。

この恵(めぐ)みを ぞんぶんに あじわわせてください。

史上最高(しじょうさいこう)のよきしらせである福音(ふくいん)を

よろこんで述(の)べ伝(つた)えるものとして遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」